

経済学部A方式I日程・社会学部A方式I日程・現代福祉学部A方式

## 3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～15	日 本 史	16～29
世 界 史	30～44	地 理	46～55
数 学	56～57		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は以下の注意事項に従うこと。
  - ・ 解答用紙の所定の欄に受験学部を○で囲むこと。
  - ・ 解答を導く途中経過も書くこと。
  - ・ 解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
  - ・ その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
  - ・ 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

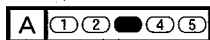
## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

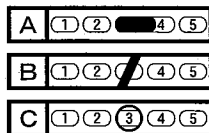
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



} 枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (世界史)

〔I〕 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

殷代の中国では、亀甲や獣骨に刻まれた文字や青銅器に記された  によれば、最高神として上帝が信じられていた。上帝は呪術的な鬼神信仰の要素を持っており、王は占いによりその神意を問い、農業や戦争などの国事を決定していた。

周代になると、上帝の概念を引き継いだ天の概念が発生する。天は、有徳の為政者には天命を与えるなどの福をもたらし、不徳の為政者には天命を奪うなどの禍をもたらすと考えられた。よって殷が滅びたことも、殷の王が悪政を行ったため、周の王であった  に天命を授け、王朝の姓を易<sup>か</sup>えたとして正当化された。このように天命による王朝交代を後の儒家は易姓革命とよんだ。儒家は、易姓革命の形式を二つに分け、夏・殷・周のような王朝交代の形式を  と呼び、堯・舜・禹のような王朝交代の形式を  と呼び、後者を理想とした。

その周も、前8世紀には、西北辺境の異民族である  に、都であった  を攻略され、 に都を移した。その後周の勢力は衰え、有力諸侯が覇権を争うようになると、新しい社会秩序のあり方をめぐって様々な主張<sup>(1)</sup>がなされるようになった。<sup>(2)</sup>

まず孔子は、 の時代の封建制を理想とし、家族道徳を基礎とした徳治主義による秩序を求めた。また孔子の考えを継承した  は、人の本性を矯正するためには聖人が定めた礼による教化が必要であるとした。

他方、墨子は、儒家が家族道徳を基礎とすることが差別愛であるとし、天の意志は、無差別平等に愛することを意味する  を実現することにあると説いた。道家は、万物を変転させる根本を  ととらえ、あるがままの無為自然を説いて、儒家が唱える人為的な道徳を排した。法家は、儒家が封建制を理想とすることに対し、国を強化する方法であれば、旧礼に従う必要はないと批判

し、秦の孝公に仕えた  は、中央集権的な行政制度や度量衡の統一などの変法を実施した。

500年を超える分裂の時代を経て、中国を統一した秦の始皇帝は、 の門下生である  を丞相に採用し、法家思想にもとづく  で統治した。これに対して、儒家が封建制に戻すことを進言したため、儒家を弾圧した。

秦は始皇帝の死後、各地で反乱がおこり滅びた。そして劉邦が中国を統一し、都を  に定め、漢王朝を建てた。初期の漢王朝では、法家、道家の影響力が強かったが、儒家も朝廷儀礼を定めるなど影響力を増していった。武帝の時代になると  の進言により、五經博士<sup>(4)</sup>がおかれ、儒家の影響力がさらに増した。<sup>(3)</sup>そして次第に、官学としての地位を確立していき、歴代王朝の正統的教養となったのである。

問1 空欄  ~  に次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |      |        |       |       |
|------|--------|-------|-------|
| a 金文 | b 空    | c 郡県制 | d 郡国制 |
| e 兼愛 | f 甲骨文字 | g 慈愛  | h 讖緯  |
| i 神権 | j 禪讓   | k 道   | l 天命  |
| m 博愛 | n 非攻   | o 放伐  |       |

問2 空欄  ~  に適した語を下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |       |      |      |       |
|-------|------|------|-------|
| a 韓非  | b 荀子 | c 商鞅 | d 鄭玄  |
| e 申不害 | f 紂王 | g 湯王 | h 董仲舒 |
| i 武王  | j 孟子 | k 李斯 | l 劉向  |

問3 空欄  ～  に適した語を下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| a 殷  | b 夏  | c 咸陽 | d 堯舜 |
| e 月氏 | f 犬戎 | g 鎬京 | h 周  |
| i 長安 | j 白狄 | k 洛邑 |      |

問4 下線部(1)に関して、春秋時代の代表的な覇者としては、桓公があげられる。管仲を宰相として富国強兵を進めた。臨淄を都としていた桓公の国とはどこか。正しい国名を、以下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| a 越 | b 呉 | c 晋 | d 齐 |
| e 楚 | f 宋 |     |     |

問5 下線部(2)に関して、ア～ウの諸子百家の学派を唱えた人物はどれか。適した語を下の語群 a～g の中から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 兵家            イ 名家            ウ 陰陽家

- |       |      |      |      |
|-------|------|------|------|
| a 公孫竜 | b 許行 | c 屈原 | d 蘇秦 |
| e 孫子  | f 鄒衍 | g 張儀 |      |

問6 下線部(3)に関して、武帝の時代に行われた政策ではないものはどれか。適した語を下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |       |            |
|-------|------------|
| a 均輸法 | b 平準法      |
| c 限田法 | d 塩・鉄・酒の専売 |

問7 下線部(4)に関して、五経博士が教授した五経ではないものはどれか。適した語を下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 易経      b 孝経      c 詩経      d 書経  
e 春秋      f 礼記

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

イングランドの宗教改革は、テューダー朝の [ 1 ] が、イングランド国王を首長とするイングランド国教会を作ることによって遂行された。 [ 1 ] の後、 [ 2 ] の治世下で国教会の礼拝形式と教義を規定した一般祈祷書が制定され、 [ 3 ] 治世時のカトリック復活への動きはあったにせよ、 [ 4 ] の時代にイングランド国教会の礼拝と祈祷は一般祈祷書に従うよう法定され、イングランドにおける宗教上の制度的統一は完了した。他方、スコットランドにおける宗教改革は、スコットランド教会が長老派(プレスビテリアン)を受容する形で行われた。また、ブリテン島の隣の島アイルランドは宗教改革の影響もほとんどなく、多くがカトリックのまま残った。しかも、島全体に及ぶ統一政権が未形成であったため、 [ 4 ] の治世期から、イングランド王によるアイルランド王国の統治権が明示的に主張され、イングランド王権による全土の政治的統一を目指してイングランド人の入植事業が開始された。この結果、テューダー朝からステュアート朝に移り、 [ 5 ] のもとにイングランドとスコットランドが同一君連合となって以降、ブリテンの王権は宗教的にも政治的にも事情の異なった三王国を同時に統治することになったのである。

なかでもアイルランドでは、幾つかの大規模な在来勢力による反乱が鎮圧された結果、 [ 5 ] 時代以降イングランドやスコットランドからの移住や入植が進み、状況は複雑化した。反乱を鎮圧し、土地を没収し、その土地をイングランドからの入植者に分配するというイングランドの支配拡大のプロセスは、ピューリタン革命時と名誉革命時に最も大規模に展開されたが、これによって旧来のカトリック教徒に加え、新参のイングランド国教徒やプレスビテリアンなどの非国教徒など、宗派や利害関係の異なる住民がアイルランド島内に存在するようになった。また、新たに土地を入手したイングランド人は、イングランドに居住したままアイルランドから送られる地代を受け取り不在地主化することも多かった。これらは、その後のアイルランドの歴史と経済的發展に大きな影響を及ぼすことになった。概してイングランド系の住民はイングランドとアイルランドが合邦することを望み、旧来の住民はアイルランドの独立を望んだからである。

カトリック教徒の被選挙権や公職就任を認めることを約束して、ブリテン政府は、1800年にアイルランドを大ブリテンに併合する合同法をアイルランド議会と大ブリテン議会で可決に持ち込み、翌年大ブリテン＝アイルランド連合王国が成立した。しかし、アメリカ独立革命以前から植民地における王権強化を望んでいた国王 6 は、カトリック教徒や非国教徒の公職就任を認めなかった。この時、カトリック教徒解放を要求する大衆運動や政治交渉をリードしたのが、ア であった。大衆的運動の盛り上がりの結果、1828年、公職に就く者に対してイングランド国教会での様式に従った聖餐にあずかることを義務づける審査法が廃止され、その翌年には国王至上権への忠誠の宣誓義務などを廃止するカトリック教徒解放法が成立した。これによって連合王国議会で議席を得て、さらにはダブリン市長にもなった ア は、さらに合邦撤回要求運動を展開するようになった。これは19世紀にヨーロッパに生じてくるナショナリズムと相まって、アイルランド独立運動として様々な政治組織を通じて展開されることになった。1842年には イ が結成され、1848年には蜂起したが鎮圧された。1858年にはアイルランド独立を目指す秘密結社である ウ が結成された。

このような独立要求の背景には、合邦後、世紀が進むにつれて停滞が激しくなったアイルランドの経済状態がある。1840年代半ばに起こったジャガイモ飢饉とそれに対する連合王国政府の対応の不十分さは、アイルランドでの自治や独立への要求を促進すると同時に、疲弊したアイルランド経済を立て直し発展させるためには、多くの不在地主を抱える従来の土地所有状態を変革する必要があることを政治家達に痛感させた。こうして、19世紀の後半に入るとアイルランド自治権の法的制定を目指す運動と土地制度改革を目指す運動が起こった。この結果、1870年にアイルランド土地法が制定され、以後、小作農の権利保障や自作農創設要求に対応して三度にわたり改定された。またアイルランド自治権要求のもとにまとまった エ は、連合王国議会内で自由党と保守党との間でキャスティングボードを握る位置にあったので、1886年には、当時の自由党政権と連携し、アイルランド自治法案が議会に提出された。<sup>(2)</sup>しかし、自由党政権の自治大臣であった オ は連合王国の統一を破壊するとしてこれに強固に反対し、議会でもこの法案は否決された。その後、オ は、自由党を離脱し、自由統一党

を設立することとなった。その後、二度にわたって自治法案が提出され、1914年<sup>(3)</sup>にアイルランド自治法は成立したが、第一次世界大戦勃発によってその実施は延期された。この時期、第一次世界大戦下で導入される可能性が高まっていた徴兵制に対する拒否と、1916年にダブリンで起こり鎮圧された **カ** 蜂起の関与者に対する当局の厳しい処分への反感によって、アイルランドの世論は、連合王国内での自治権確立ではなく、連合王国からのアイルランドの完全独立と共和政を求める **キ** の支持に急激に傾いた。1918年の連合王国議会の総選挙で大勝した **キ** は、連合王国議会には参加せず、1919年アイルランド共和国を宣言し、独立戦争が勃発した。1922年、休戦条約が結ばれ、アイルランド北部にある **ク** 地方の6州を除いて、アイルランドは自治領 **ケ** となった。しかし、この条約への賛否をめぐってアイルランドは内戦状態に陥った。内戦は比較的短期間で終わったが、**ク** 地方6州の帰属をめぐって北アイルランド問題が残ることとなった。1931年にウエストミンスター憲章によって、各自治領は連合王国本国と対等の地位を得たのち、アイルランドでは **コ** 政権のもとで1937年に新憲法が国民投票で承認され、国名が **サ** となった。**サ** は、第二次世界大戦において、連合国側にも枢軸国側にも与せず中立を維持し、戦後1949年にイギリス連邦を脱退し、共和政国家であることが法によって明示され、<sup>(5)</sup>アイルランド共和国となった。**ク** 地方6州では、連合王国からの独立を目指すりパブリカンと連合王国内に留まることを望むユニオニストの対立が続き、行政における宗派間の差別や対立が、テロの報復をも含む武力紛争に拡大した。だが、1998年に、<sup>(6)</sup>連合王国とアイルランド共和国の間で和平合意が結ばれ、和平プロセスが実行されたことで、この泥沼化した北アイルランド紛争も沈静化に向かい、北アイルランド議会と北アイルランド政府が再建された。



問1 空欄  ～  に次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |   |         |   |         |   |         |
|---|---------|---|---------|---|---------|
| a | ヴィクトリア  | b | ウィリアム3世 | c | ウィリアム4世 |
| d | エドワード6世 | e | エリザベス1世 | f | ジェームズ1世 |
| g | ジェームズ2世 | h | ジョージ1世  | i | ジョージ2世  |
| j | ジョージ3世  | k | チャールズ1世 | l | チャールズ2世 |
| m | ヘンリ8世   | n | メアリ1世   |   |         |

問2 空欄  ～  に次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |   |              |   |             |
|---|--------------|---|-------------|
| a | アイルランド共和党    | b | アイルランド国民党   |
| c | アイルランド自由国    | d | アルスター       |
| e | イースター        | f | エール         |
| g | オコンネル        | h | オブライエン      |
| i | カルヴァン        | j | グラタン        |
| k | クロムウェル       | l | ケア=ハーディ     |
| m | ケルト          | n | コブデン        |
| o | ジェントリ        | p | ジョゼフ=チェンバレン |
| q | シン=フェイン党     | r | スウィフト       |
| s | 青年アイルランド党    | t | デ=ヴァレラ      |
| u | フィニアン(フェニアン) | v | ヨーマン        |

問3 下線部(1)～(6)の出来事が起きたときのブリテンまたは連合王国の首相として適切なものを次の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |          |            |          |
|----------|------------|----------|
| a アスキス   | b アトリー     | c ウォルポール |
| d キャメロン  | e グラッドストーン | f グレイ    |
| g サッチャー  | h ソールズベリ   | i デイズレーリ |
| j. チャーチル | k ピット      | l ブラウン   |
| m プレア    | n マクドナルド   | o マクミラン  |
| p メージャー  |            |          |

問4 下線部(A)に関連する次の a～f の6つの出来事を、年代順に古い方から並べ替え、2番目、4番目、6番目の記号をそれぞれ解答欄にマークせよ。

- |            |              |
|------------|--------------|
| a 航海法の発布   | b 短期議会の召集・解散 |
| c ネーズビーの戦い | d 審査法の制定     |
| e 人身保護法の制定 | f 王政復古       |

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

第二次世界大戦以降、世界各地で地域協力・地域統合が目指され、国家を越える規模の共同体が現出した。中でもヨーロッパ連合(EU)は、2004年の拡大を経て現在、28の加盟国を数え、5億人を越す規模となった。さて、この人口規模を越える地域統合機構が二つある。1967年に設立された「ア」と、1963年に設立された「イ」を前身とし2002年に設立されたアフリカ連合(AU)である。

「ア」は現在10カ国、アフリカ連合は54カ国と、地域に属する国家が、一部を除いて全て加盟し、ヨーロッパ連合にも連なる独立共同体やアフリカ合衆国と<sup>(1)</sup>いった統合段階をめざしている。しかし、各々の統合過程は、一律に語ることはできない。

両地域の国家の大半は旧植民地であり、第二次世界大戦後に独立した国<sup>(2)</sup>である。新興国の国境は、植民地の境界線が反映され、部族や民族のまとまりとは矛盾し、国家や国民を新たに作り上げる必要があった。こうした新興国家形成と同時に地域協力の道が模索され始めたが、独立直後の動きは、域外からの介入や世界情勢に左右された。東南アジアでは、軍事面ではアメリカの提唱で1954年「ウ」が結成された。一方、インドシナ戦争の停戦会議でアジア諸国に発言の余地がなかったことの反発から、1954年に東南アジア・南アジア諸国による「1」会議が開催され、翌年のバンドンにおける会議、1961年にベオグラードで開催された非同盟諸国会議という大きな連なりを生み出した。しかし東南アジア諸国全体の地域統合をめざした組織づくりは、インドシナの政情不安とイデオロギーの対立から進まず、反共・欧米寄り・工業化重視の姿勢を同じくする三カ国がまず1961年に連合を設立し、そこに<sup>(3)</sup>政策転換を行ったインドネシアと新たに独立した「2」が加わり、1967年、バンコク宣言の下、「ア」が五カ国で発足し、1984年にもう一カ国が加わった。

一方、アフリカ統一は、1900年からのパン=アフリカ会議で目標に掲げられ、1912年に南アフリカで組織された「エ」も全アフリカ人の連帯を訴えた。アフリカ諸国が多数独立する1960年代には現実的な取り組みが議論された。なかでも、「3」の初代大統領エンクルマは、1961年1月のカサブランカでの会

議において、アフリカ分割を決めたベルリン会議の否定およびアフリカ合衆国の創設を主張し、<sup>(4)</sup>統合急進派グループのリーダーとなったが、漸進的な統合を掲げる諸国のグループと対立した。イは、4のハイレ=セラシエ皇帝が1963年に両派を招き設立されたが、実行力は限られた。実際の集団安全保障や地域経済統合は、北部・西部・東部・東南部・南部の地域単位ですすめられた。

イは、頻発した内戦に対して、<sup>(5)</sup>加盟国の主権を重んじ内政不干渉の立場をとった。一方、独立後、人種隔離政策をとった国における黒人解放闘争にも、<sup>(6)</sup>エほど積極的に働きかけなかった。クーデタによる政権交代や軍事独裁も頻発し、1966年にエンクルマが、1972年にハイレ=セラシエが自国のクーデタで失脚した。こうした姿勢を反省し、アフリカ連合では平和維持のため相互に監視する委員会を設け、クーデタなど正規の手続きによらない政権交代があった場合、加盟国の資格停止を行うことにしている。

一方、アでは、70年代のベトナム戦争に際して、ウに参加した加盟国はアメリカを支援したが、他の加盟国は中立の立場をとり、組織は反共色を弱め、経済・政治協力機構へと変わった。しかしベトナムがアに加盟するのは、南北統一から20年を経てからであった。ベトナム加盟は組織にとって<sup>(7)</sup>大きな転換点となり、つづいて<sup>(8)</sup>インドシナ半島三国が1999年までに加盟し、現在の10カ国体制に拡大した。ベトナムのア加盟の前年に、イでもそれまで唯一加盟が認められていなかった5がついに加盟し統合に拍車がかかった。この国では同年、エの議長が大統領に選出されている。

現在、アフリカ連合は、まず各地域単位での通貨統合をすすめ、最終的にそれらを統合して、アフリカ全体を覆う経済共同体とアフリカ合衆国の発足を目指している。アは、安全保障・経済・社会文化のサブ組織からなる独立共同体を目指し、東アジア諸国とあわせてアジア通貨単位を提唱中である。

問1 空欄  ～  に次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |          |               |
|----------|---------------|
| a エジプト   | b エチオピア       |
| c ガーナ    | d コロンボ        |
| e ジャカルタ  | f ジュネーブ       |
| g シンガポール | h セネガル        |
| i フィリピン  | j ブルネイ=ダルサラーム |
| k 南アフリカ  | l ミャンマー(ビルマ)  |
| m リビア    |               |

問2 空欄  ～  に次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |              |               |
|--------------|---------------|
| a アジア=アフリカ会議 | b アフリカ経済共同体   |
| c アフリカ民族会議   | d アフリカ統一機構    |
| e 東南アジア条約機構  | f 東南アジア友好協力条約 |
| g 東南アジア諸国連合  | h 東南アジア連合     |

問3 下線部(1)について、現在、アフリカ連合に加盟していないのは、1976年に西サハラ領有を主張したものの、 が西サハラの加盟を承認したため、 を脱退した国である。この国は19世紀末まで鎖国を維持していたが、20世紀からフランス・スペインの保護国となった。フランスの進出については、1905年と1911年にドイツの二度にわたる抗議があった。その国とはどこか。次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |          |         |          |
|----------|---------|----------|
| a アルジェリア | b チュニジア | c モーリタニア |
| d モロッコ   | e リビア   |          |

問4 下線部(1)について、現在  に加盟申請中の東ティモールは、2002年に独立したが、16世紀にそこを領有し始めた旧宗主国はどの国か。次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a イギリス                      b オランダ                      c フランス  
d ポルトガル                      e マレーシア

問5 下線部(2)について、第二次世界大戦以前に建国していた東南アジアとアフリカの国々の組み合わせとして適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a タイ王国・リベリア共和国・エチオピア帝国  
b タイ王国・リベリア共和国・南アフリカ共和国  
c マラヤ連邦・タイ王国・南アフリカ共和国・リベリア共和国・エチオピア帝国  
d マラヤ連邦・タイ王国・南アフリカ共和国・エチオピア帝国  
e マラヤ連邦・タイ王国・リベリア共和国・エチオピア帝国

問6 下線部(3)について、この時期のインドネシアの政策転換について、以下の文章の空欄  ～  に次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

1965年の共産党軍人によるクーデタを鎮圧した  少将が1966年に大統領から政権委譲されると、1963年に成立した国家である  との対立を解消し、国連に復帰するとともに、 と断交し、反共・親米路線で工業化や近代化を推進する政策へと転換した。

- a アロヨ                      b スカルノ                      c スハルト  
d ソ連                          e 中国                              f フィリピン  
g ベトナム                      h マレーシア                      i パプア＝ニューギニア  
j アメリカ

問7 下線部(4)について、このベルリン会議が主催された年について、次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 1878      b 1884      c 1919      d 1930      e 1945

問8 下線部(5)について、以下の文章の空欄  ～  について、次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

1960年代の内戦は、イボ族がピアフラ共和国として分離独立宣言をした  内戦(1967-70)やコンゴ動乱など、国際紛争に発展した。70年代半ばには、旧ポルトガル系のアフリカ植民地で独立前後に内戦が相次ぎ、なかでも1975年に独立した  の内戦は長期化し、2002年にようやく休戦協定が結ばれた。90年代には、1990年から94年までツチ族とフツ族の対立から  と隣国ブルンジで内戦が起こり、合計わずか6万平方キロメートルの国土から100万人以上の犠牲者を数えた。

- a アンゴラ      b ソマリア      c ナイジェリア  
d モーリタニア      e ルワンダ

問9 下線部(6)について、60年代に独立したものの人種差別政策を取り続け、15年後、黒人主導のジンバブエとして独立しなおした国はどこか。次の語群から適切なものを選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ギニア=ビサウ      b ザンジバル      c トランスヴァール  
d ベルギー領コンゴ      e ローデシア

問10 下線部(7)について、1975年以降のベトナムに関して起った①～④の出来事を年代順に古い方から並べ替えたとき、適切な順番を次から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 中越戦争
- ② クリントン期のアメリカとの関係正常化
- ③ 経済開放政策(ドイモイ=刷新)の開始
- ④ カンボジアからの完全撤退

- a ① — ② — ④ — ③
- b ③ — ④ — ① — ②
- c ② — ③ — ① — ④
- d ① — ③ — ④ — ②

問11 下線部(8)について、この三カ国は同時加盟の予定であったが、カンボジアのみ政変で遅れ1999年に加盟した。その理由について述べた次の文章を読み、空欄 12 ～ 15 に最も適切な語を次の語群から選び、記号をマークせよ。

カンボジア内戦は、1991年に和平協定が結ばれ、93年には 12 を国王とするカンボジア王国を発足させたが、完全終結にはいたらず、97年、当時の第一首相が 13 派と結び、第二首相 14 と対立し内戦状態となった。13 は翌年死に、派は勢いを失い、12 国王の調停で、第二首相 14 が首相となり、ついに内戦は終結した。14 は、1979年に樹立された 15 を元首とするカンボジア人民共和国の外務大臣であった。

- a シハヌーク
- b フンセン
- c ヘン=サムリン
- d ポル=ポト